

哀悼



故 木下 敬介 先生

元 山口県医師会長
山口県医師会顧問

木下敬介先生を偲んで

元山口県医師会長 藤井 康宏

木下敬介先生の悲報に接したのは8月4日夜、突然の事であった。

先生は医院閉院後も、療養中とはいえ順調に過ごされていると思っていただけに、突然の悲報に最初は耳を疑い、やがて淋しさと悲しみに静かに包まれていった。

木下先生が直接県医師会に係わられたのは、生涯教育委員会に参加された時からである。当時、生涯教育委員会を効率的に運営するため全面的に改組したが、この時、長門市医師会の副会長をしておられた木下先生が委員長を務められ、以後、県医師会生涯教育事業の企画、運営をされた。

これに続き、県医師会役員に就任され、多くの事業に携わられたが、その中で私の印象に残っている事業を挙げれば、先生の常任理事時代、医師国保の全国大会開催の引き受けがある。会場や宿泊施設に乏しい山口県での開催を皆危惧していたが、担当責任者であった木下先生が広島市での開催を決め、これを実行し、成功裏に終える事

が出来た。他県での開催には困難を伴う事もあったと思うが、木下先生は無事その役を果たされた。

さらに、先生が苦勞されながら遂行された事業に、予防接種の広域化があった。先生は持ち前の粘り強さで、各郡市医師会や行政との調整を行いながら事業を進められた。

その後、副会長、会長へと就任され、特に会長職は闘病生活の中での職務であったが、決して職責をおろそかにされることは無かった。会長職を辞されてから日もまだ浅く、多くの人々のなかにその時の印象は色濃く残っている事と思うが、その業績は高く評価されている。

木下先生はまた文化人でもあった。自らも随筆集を出版され、当地長門市でも落語会の主催、さらに金子みすゞ顕彰会の御世話をされる等、幅広く文化活動を行っておられた。これらを通じて培われた教養や人間性が先生の言葉や行動に随所に反映されており、穏やかに人々と協調されながら、業務を遂行しておられた。

しかし、自分には厳しく職責の重要性を強く認識しておられ、まさに文字通り献身的に業務に励まれていた。

やはり、先生を語る時に触れておきたいのは、酒をこよなく愛された事である。酔って楽しくカラオケを歌われる姿や、周囲の人々と議論に熱中

される姿は、忘れる事は出来ない。これらの面影を追いながら、ここに筆を進めてきたが、あまりにも突然の別れに思いは尽きぬものがある。しかし、現実を受け止め、今はただ先生の律儀な生き様をしっかりと胸に留め、御霊の安からな永久の眠りを心から御祈り申し上げる。

木下元会長の思い出

山口県医師会会長 河村 康明

木下敬介先生、お疲れ様でした。木下先生と言えば、今は県下で施行されている広域予防接種の実現に向けた協議会での座長役としての巧みな運営を思い出します。それ以前は各市町村で個々に行われていた予防接種を県下統一するという試みでしたが、約 2 倍の差のあった接種料金をまとめるとい難事業を、計 6～7 回の協議会でまとめられました。当時は副会長として、この事業に尽力しておられました。

徳山での会合でしたかね。当時、私は光市医師会の会長でしたが、光市から県医師会の役員を過去一度も出したことが無かったので、地域の医

師会の声を小さな声ではあるけれども県医師会に反映させたいと思い、お願いしましたね。その時には実現しませんでした。木下先生が県医師会長に就任された即座に、県医師会理事に採用していただきました。

県医師会での仕事は、一理事ながら比較的自由に活動させていただき、さまざまな分野の仕事をさせていただきました。本当にありがとうございました。

これからも、好きな酒を好きなだけ飲んでくださいね。

経 歴

昭和 17 年 7 月 4 日 長門市にて出生

昭和 42 年 3 月 山口県立医科大学卒業

昭和 42 年 4 月 1 日～昭和 43 年 3 月 31 日 山口大学医学部附属病院にて実地修練

昭和 43 年 4 月 1 日～昭和 53 年 10 月 31 日 山口大学、山口大学医学部附属病院勤務

昭和 53 年 11 月 1 日 木下皮膚科医院 開業

平成 29 年 10 月 31 日 閉院

平成 8 年 4 月 1 日～平成 12 年 3 月 31 日 山口県医師会理事

平成 12 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日 山口県医師会常任理事

平成 16 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日 山口県医師会副会長

平成 20 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日 山口県医師会会長

平成 16 年 10 月 13 日 厚生労働大臣表彰（国民健康保険関係功労）

平成 23 年 11 月 18 日 山口県選奨（保健衛生・環境功労）

平成 24 年 11 月 3 日 旭日小綬章（保健衛生功労）

平成 30 年 8 月 4 日 永眠 従五位